

<目指す学校像>

「楽しい学校」「活力のある学校」「信頼される学校」

重点目標

「互いに関わり合い、他の人のために活動する喜びを感じられる学級・生徒会づくり」「生徒同士の学び合いを通して、互いに高め合い、認め合える授業づくり」

まなびのプロジェクト

目標	☆学び合いを通して、よりよく関わり、課題解決に取り組むことのできる力を育む。 ☆生徒が「なるほど」「わかった」「できた」を実感できる授業を実践する。
達成基準	○「授業でペアやグループで話し合う活動は好きだ」と回答する生徒の割合80%以上（昨年度83%）。 ○「授業がよくわかる（5教科）」と回答する生徒の割合85%以上（昨年度88%）。 ○全国標準学力検査の平均偏差値54以上（昨年度55）。
目標達成への取組	○「学習課題」と「まとめ」「振り返り」のある授業を行う。 ○ペア・グループや学級全体で考えを交流したり、話し合ったりする「学び合い」の場面を設定する。 ○職員も少人数グループによる実践的な授業研修に取り組む。 ○「総合的な学習の時間」等を通して、キャリア学習の充実を目指す。 ○定期テストや長期休業の機会などを利用して、主体的な学習態度が身に付くように指導する。

からだのプロジェクト

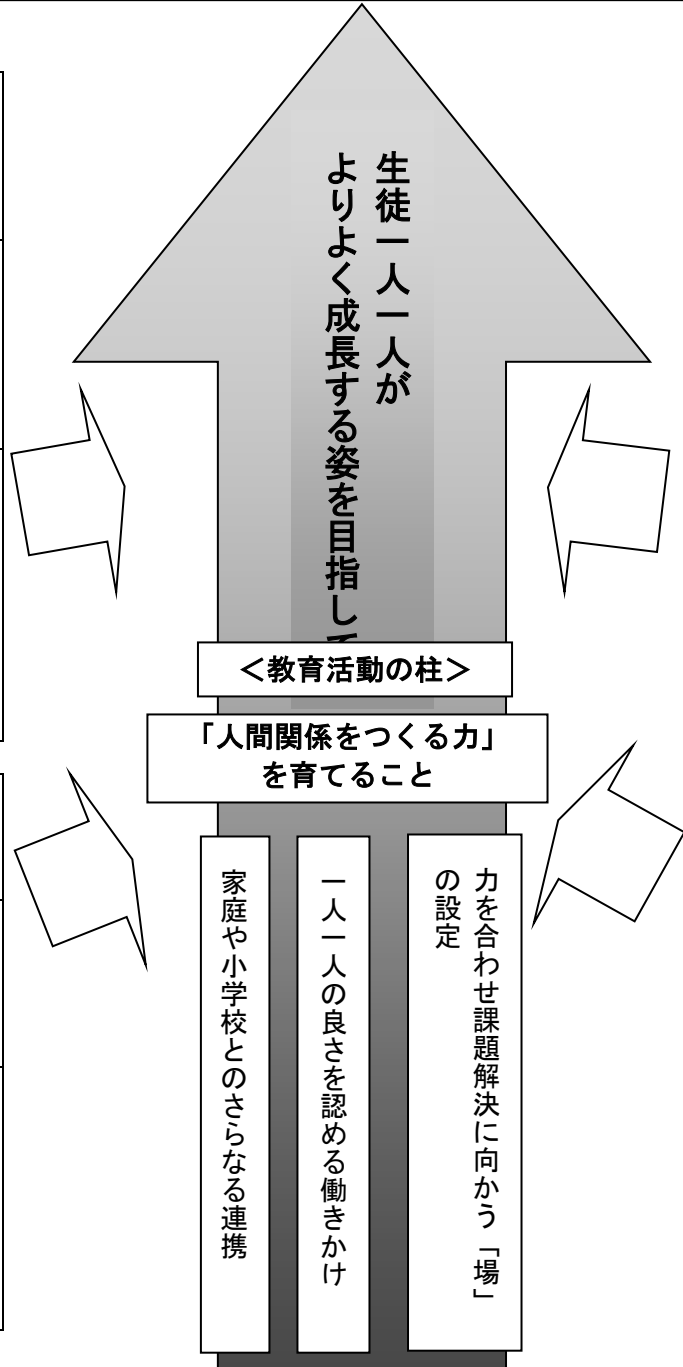
目標	☆心身ともにたくましい生徒を育てる。 ☆健康三原則（栄養・睡眠・運動）の大切さを理解させ、望ましい生活習慣を実践する力を育てる。
達成基準	○体育の授業で進んで身体を動かしている生徒の割合 85%以上（昨年度93%）。 ○バランスのとれた食事の意義を理解し、実践している生徒の割合 85%以上（昨年度90%）。
目標達成への取組	○体育の授業でワークシートを活用し、運動に対する意欲の維持・向上を図る。 ○「健康週間」で食事や睡眠に関する自分の生活を見直す取組を行う。 ○「食育の日」の取組を核とし、全職員で継続的な食の指導に努める。 ○家庭・小学校と協力し連携した指導を進める。

こころのプロジェクト

目標	☆互いに関わり合い、認め合う人間関係を育む。 ☆自己肯定感、自己有用感を育てる。
達成基準	○「他の人と協力して学習や活動に取り組んでいる」と回答する生徒の割合90%以上（昨年度95%）。 ○「自分にはよいところがある」と回答する生徒の割合 80%以上（昨年度81%）。 ○「先生や友達に認められて、うれしいと感じることがよくある」と回答する生徒の割合 85%以上（昨年度90%）。
目標達成への取組	○「ふりかえりノート」等を通して、生徒の良さを認め、励ますことに努める。 ○教科としての道徳の授業を大切にし、思いやりの心を育てる。 ○教育相談週間を年間3回以上実施し、生徒の思いに寄り添い、傾聴する。 ○異学年との協同活動を積極的に取り入れる。 ○生徒会活動や学級活動において、協同活動を通じた充実感や企画力・実践力の育成に努める。

特別支援教育

目標	☆一人一人をていねいに見取り、個性と可能性を伸ばす。 ☆基礎学力を伸ばし、社会スキルの育成を図る。 ☆自立と生活体験を通し、社会参加能力を育成する。
達成基準	○他と関わる時間や場面が増える。 ○作業や学習の質・量・速さ等が向上する。
目標達成への取組	○生徒一人一人への支援を充実させるため、全職員で特別支援教育に取り組む。 ○教育相談や保護者との面談、関係機関との連携を通し、個別指導計画を立て活用する。 ○特別支援教育に関する理解を深め、適切な教育や支援を行うことができる体制を確立する。



<教師の思い>

- ・自ら考え主体的に取り組む姿勢を伸ばしたい。
- ・他の人と関わり合い、協力して力を発揮する集団となっていきたい。
- ・自己肯定感・自己有用感を一層育んでいきたい。

<現在の生徒の姿>

- ・全体的に学力が高く、学習に取り組む意欲が高い。
- ・素直な態度で落ち着いた校内生活を送っている。
- ・協力し合い、前向きな活動が行われている。

<保護者や地域の方の思い>

- ・一人一人の学力や興味・関心を伸ばしてほしい。
- ・いじめや不登校のない状況が続いてほしい。
- ・丈夫な体と健康的な生活習慣を身につけてほしい。

(保護者・職員アンケートより)